



## 戸田港祭りに参加す

川島勝次

幕末のロシア軍艦ディアナ号にまつわる歴史で知られる戸田では港まつりが今年35回目を迎え、7月19日に開催された。今年は当協会でも港まつりツアーの参加者を募集。協会員が6人、ロシア大使館から一等書記官2人、ロシア通商代表部から次席以下幼児も含め23人と大部隊となった。

現地集合のため自家用車やマイクバス・電車バスとでそれぞれの方法で戸田に到着。

私が戸田に着くと丁度お祭りのパレードが海岸から出発する所だった。ブチャーチンが昔宿舍とし、また戸田で船を建造中亡くなった2人のロシア人を祀っている宝泉寺までのいわゆるブチャーチンロードをこれから行進するのである。早速お祭りの法被を借り、行列に加えてもらう。

パレードの先頭は沼津消防署のラッパ隊でその後からブチャーチン堤督とロシアの海軍旗を持った水兵たちが続く。今年提督に扮しているのは東京で旅行会社を経営する傍ら俳優業もやっているというアナトリ・クラスノフさんが、水兵の一人には当協会の学生会員である石井美智也君が扮している。

今回は江戸時代、この地域の代官として絶大な権力を持ち、また幕末には開明的な活躍をした江川太郎左衛門家42代目の



当主もブチャーチンと並んでパレードに加わっている。提督たちの後ろはヘダ号の大きい模型を積んだ軽自動車。しんがりは祭りの法被を着た市民有志が続いた。台風の影響でいつ雨が降ってもおかしくない空模様だったが、慰霊祭が終わった途端、土砂降りの雨が降り出し、傘は用意していたもののみなかなか濡れた。

3時から港まつりの開会式が始まると知らされた。よく聞くと慰霊祭は港まつりとは

別だという。旧ソ連時代は大使館の人たちが宝泉寺に集まり慰霊を行っていたのを村の行事にして、現在のブチャーチンロード・パレードにまで発展させた。このパレードをやることによって、地元だけでなく、ディアナ号の歴史に関心を持つ大勢の人達に祭りに参加してもらうことができるのだという。わが協会もツアーを募って東京から来ているし、今年で3回も参加している「来日ロシア人研究会（来ロ研）」もバスを仕立てて来ている。そのおかげで、来ロ研の世話人の長縄光男先生にも会えたり、中村喜和先生にも会うことが出来た。

港まつりは港に感謝し安全を祈願するため清めの塩をかぶり塩の道を歩くことから始まる。恒例の段ボール舟レースがあり、舞台ではライブもあり最後に花火大会があった。久しぶりの花火大会は大いに楽しめた。 (常任理事)

<新刊紹介>